

# 景況調査

報告書

No. 100

令和5年7月～9月  
令和5年10月～12月

実績  
見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

# 令和5年度第2四半期(令和5年7月～9月)景況調査

1. 調査時点 令和5年10月1日～10月25日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内  
 (2)対象(回答)企業 104 [97 企業、7団体] 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	47 (3)	8 (2)	16 (1)	16	9 (1)	8	104 (7)

※ ( )は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では-9.7、前期実績(-7.2)と比較すると-2.5ポイントと横バイの傾向が見られ、前年同期比では、-6.8、前期実績(0.0)と比較すると-6.8ポイントと下降の傾向が見られた。売上DI値は、前期比で3.8、前期実績(-7.2)と比較すると11.0ポイントと上昇の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で-14.3、前期実績(-15.6)と比較すると1.3ポイントと横バイの傾向が見られた。総合判断来期見通しは-16.3、今期の実績(全業種(当期実績)前期比-9.7)と比較すると-6.6ポイントと下降の傾向が見られた。

「製造業」のうち食料品は前期比では上昇も、前年同期比では横バイまたは減少が多かった。インフレによる消費意欲減退に加えて、原材料・エネルギー・人件費高騰で利幅が縮小し厳しい状況。織物はコロナ前に戻りつつあるが、8～9月の荷動きが全体的に悪く、猛暑など天候の影響が、インフレ等による繊維製品の買い控えか、原因を探る必要を感じる。漁網・ロープは生産・販売数量ともに前年同期比は15%程度の増加が見られるが、それを上回る原材料・エネルギーコストが収益を圧迫。自動努力だけでは吸収できない状況が続く。鉄工のうち工作機械関連では、日本工作機械工業会の受注総額は7月1,143億円、8月1,147億円、9月1,339億円。対前年比で内需・外需とも1～2割程度減少が続き、当地区でも同様の傾向にある。自動車関係では、トヨタ国内生産は、新車受注や受注残の挽回生産も含めて前年同期比プラスの高水準で推移。当地区全体でも持ち直し傾向だが、車種の違いもあるが、企業によるバラつきが目立った。化学工業は中国市況の動向を反映して、輸出が不安定な状況にある。円安による国内回帰の可能性はあるが、海外との生産競争が激化しており、中小企業にとっては非常に厳しい状況。プラスチックは取引先業界ごとに業況は様々だが、自動車関連は増加傾向。円安、原材料・エネルギー高によるコスト増が収益低下要因になっている。さらにコロナ以降のニーズ変化も影響した。

「建設業」は公共工事、民間工事とも堅調に推移した。人件費(人手不足)や資材高騰で収益が圧迫される状況が続く。

「卸売業」のうち、繊維卸は<産業資材>車両用帆布は前期より更に改善。自動車の部品不足も解消が進み最盛期に近い水準に戻った商品も。他の資材用途は回復が鈍化。食料品等の値上げによる繊維関連の消費意欲が低迷か。<インテリア>全体的に厳しい環境で、円安・コスト高等が重なり全体的に動きが鈍い。9月以降の新商品導入で多少の回復傾向。<アパレル>円安、原料高の影響があり、積極的な仕入れより過剰在庫の削減が必要

「小売業」はインフレによる消費意欲減退+コストアップの影響もあり売上・収益ともに厳しい状況。残暑もあり冷房機器が良く動いたが、仕入価格上昇で利幅は縮小した。飲食は売上は前年同期・前期比で回復傾向もコストアップの影響で利幅は縮小傾向にある。石油等その他小売は原油価格(WTI期近物)は、70ドル台後半から開始。OPEC減産による需給バランス・米中景気刺激策等への期待で値を上げ、中国不動産大手の経営不振と軟調な経済指標で一時的に下がるも、その後80ドル台後半にて推移。

「サービス業」のうち旅館関係は宿泊者数は昨年比では1～2割アップも、コロナ前比(2019年)の6割程度。宿泊施設の人手不足に加え、運転手不足で観光バス・団体の動きが悪い。大河ドラマの影響は多少あるが、インフレによる旅行意欲が減退している所にコストアップ・人件費の価格転嫁を進める難しい状況。

「運輸通信業」 貨物輸送では経済正常化に伴い前年同期比で増加傾向の企業もあり、経済全体・特に製造業の鈍さに影響を受けた企業も。エネルギー高騰・人手不足などから採算面の悪化を訴える声も多く見られた。

設備投資状況は、43事業所(59件)で設備投資が実施され「生産設備(32.2%)」等に投資された。来期は35事業所(45件)が「生産設備(35.6%)」等の設備投資を計画している。

経営上の問題点は、原材料(燃料)高、売上の停滞・減少、利幅の縮小、人手不足、人件費の増加、が項目別で上位を占めている。

当地区において 令和5年度第2四半期は横バイ傾向で、売上は前年・前年同期比で上昇も、収益はそれ以上に下降傾向。業種毎では、製造業関連では自動車関連の回復はあるも、やや停滞の兆しが見えており、卸売業・小売では為替の影響と、消費意欲低迷の影響があった。サービスは回復基調も、コロナ前にはまだ届かずといった状況。経営上の問題点では、売上の減少に代わって、原材料(燃料)高が1位に浮上。利幅縮小・人手不足・人件費等の課題も目立つ状況となった。総じて、二極化が進むといわれる、地方の中小・小規模事業者の経済環境を表す結果となった。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

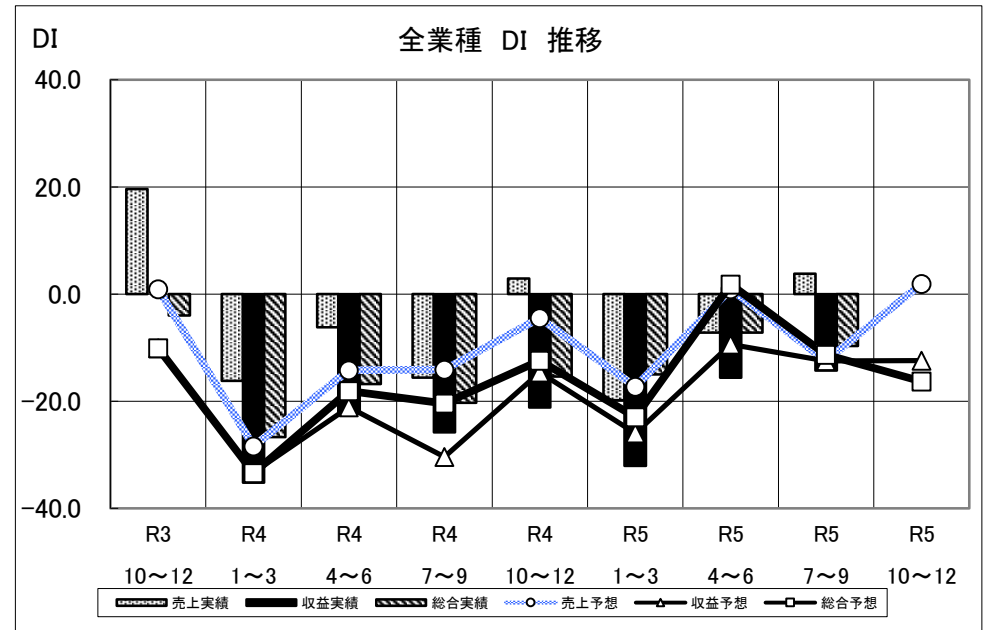
<全業種 各項目別期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月～9月 に比べて	前期比 令和5年4月～6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月～12月 の見通し	売上		収益		総合判断			
				前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し	
①生産額・売上額	9.6	3.8	1.9	R4.7～9月実績	-5.6	-15.6	-31.5	-25.8	-21.4	-20.3	-12.4
②製品・商品在庫	-9.7	-13.5	-2.0	R4.10～12月実績	-11.6	2.9	-36.5	-21.2	-22.1	-15.4	-23.0
③資金繰り	-6.7	-7.6	-9.5	R5.1～3月実績	-3.8	-19.8	-11.3	-32.1	-6.6	-15.0	1.8
④採算(収益)	-19.0	-14.3	-12.4	R5.4～6月実績	13.4	-7.2	-2.1	-15.6	0.0	-7.2	-11.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	1.0	-4.7	3.8	R5.7～9月実績	9.6	3.8	-19.0	-14.3	-6.8	-9.7	-16.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-6.8	-9.7	-16.3								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	19.6	-16.2	-6.2	-15.6	2.9	-19.8	-7.2	3.8	1.9
収益	0.0	-35.2	-22.2	-25.8	-21.2	-32.1	-15.6	-14.3	-12.4
総合	-4.0	-26.7	-16.8	-20.3	-15.4	-15.0	-7.2	-9.7	-16.3

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| (注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少) | 採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)  |
| 製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)    | 従業員数 :DI=(増加)-(減少)    |
| 資金繰り :DI=(好転)-(悪化)       | 業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化) |

- DIが0より大 ⇒ 景気上向き  
 DIが0 ⇒ 景気横ばい  
 DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上      DI 6~49%      DI 5~-5%



DI -6~-49%      DI -50%以下



## 6. 業種別報告

### 製造業

売上DI値は-10.4、前期実績(4~6月期-6.0)に比して-4.4ポイントの横バイ、収益DI値は-18.8、前期実績(4~6月期-18.0)に比して-0.8ポイントの横バイ、総合判断DI値は-17.0、前期実績(4~6月期-14.0)に比して-3.0ポイントの横バイとなった。

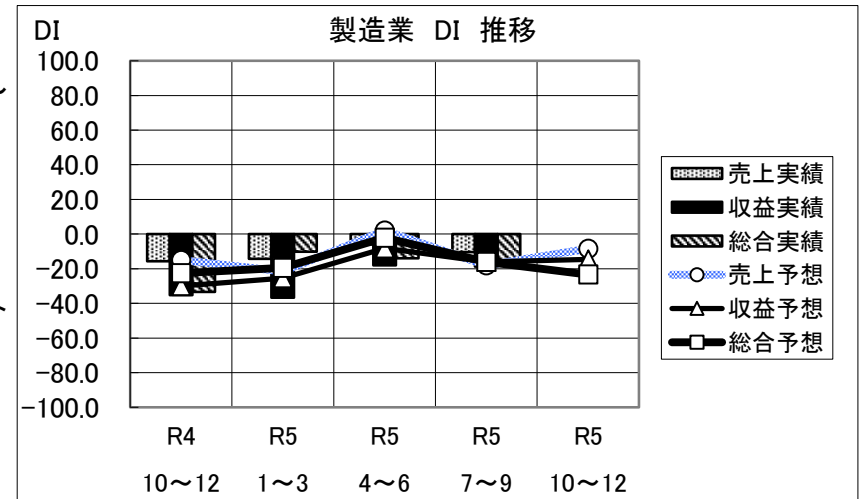
#### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は-8.4ポイントの下降、収益DI値は-14.6ポイントの下降、総合判断DI値は-23.4ポイントの下降となっている。

#### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月~9月 に比べて	前期比 令和5年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	10.4	-10.4	-8.4
②製品・商品在庫	-4.2	-6.3	0.0
③資金繰り	-8.3	-8.3	-16.6
④採算(収益)	-22.9	-18.8	-14.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	10.4	6.3	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-8.5	-17.0	-23.4



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-15.7	-14.3	-6.0	-10.4	-8.4
収益	-35.3	-36.7	-18.0	-18.8	-14.6
総合	-33.4	-10.2	-14.0	-17.0	-23.4

### [食料品]

売上DI値は-33.3、前期実績(4~6月期33.3)に比して-66.6ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績(4~6月期-16.6)に比して16.6ポイントの上昇、総合判断DI値は-33.3、前期実績(4~6月期-16.6)に比して-16.7ポイントの下降となった。前期比では上昇も、前年同期比では横バイまたは減少が多かった。インフレによる消費意欲減退に加えて、原材料・エネルギー・人件費高騰で利幅が縮小し厳しい状況。

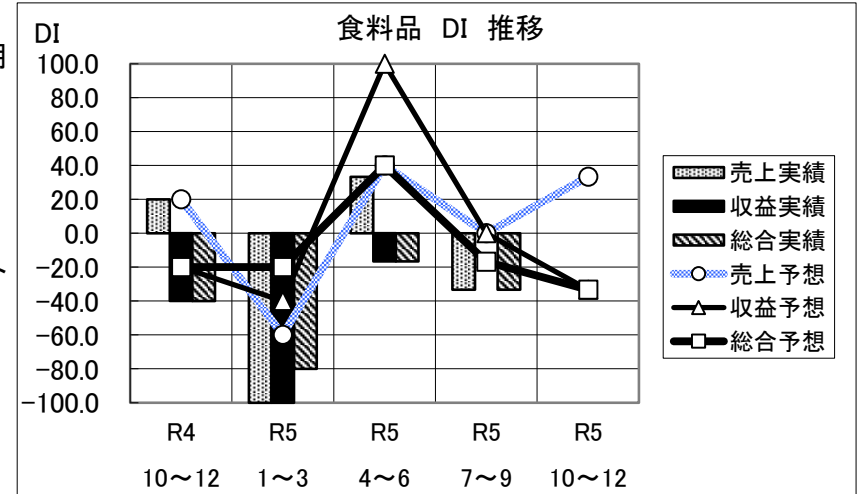
#### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は33.3ポイントの上昇、収益DI値は-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3ポイントの下降となっている。年末の需要期に向けて期待をする企業もあれば、売上の伸び悩みを訴える声もあり様々な見込みが出されている。

#### (食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月~9月 に比べて	前期比 令和5年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-33.3	33.3
②製品・商品在庫	-66.7	-33.3	-33.3
③資金繰り	-33.3	0.0	-33.3
④採算(収益)	0.0	0.0	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.4	-33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-33.3	-33.3



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	20.0	-100.0	33.3	-33.3	33.3
収益	-40.0	-100.0	-16.6	0.0	-33.3
総合	-40.0	-80.0	-16.6	-33.3	-33.3

### 【織物】

売上DI値は-25.0、前期実績(4~6月期0.0)に比して-25.0ポイントの下降、収益DI値は-25.0、前期実績(4~6月期-100.0)に比して75.0ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(4~6月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイとなった。コロナ前に戻りつつあるが、8~9月の荷動きが全体的に悪く、猛暑など天候の影響か、インフレ等による繊維製品の買い控えか、原因を探る必要を感じる。

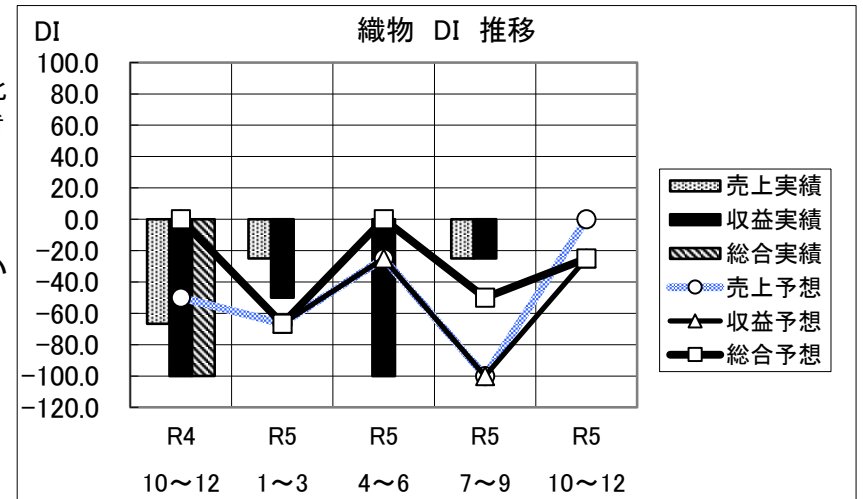
#### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-25.0ポイントの下降、総合判断DI値は-25.0ポイントの下降となっている。SS商品の発注が増加しつつあるが、夏季の不調の分析を踏まえて、今いる人材、生産リソースで効率的に売り上げ、利益をとれるように見直しは必須になる。

#### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月~9月 に比べて	前期比 令和5年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-25.0	0.0
②製品・商品在庫	-25.0	-25.0	-25.0
③資金繰り	0.0	0.0	-25.0
④採算(収益)	-50.0	-25.0	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	25.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	0.0	-25.0



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-66.7	-25.0	0.0	-25.0	0.0
収益	-100.0	-50.0	-100.0	-25.0	-25.0
総合	-100.0	0.0	0.0	0.0	-25.0

### 【漁網・ロープ】

売上DI値は-33.3、前期実績(4~6月期16.7)に比して-50.0ポイントの下降、収益DI値は-33.3、前期実績(4~6月期-16.7)に比して-16.6ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3、前期実績(4~6月期0.0)に比して-33.3ポイントの下降となった。生産・販売数量ともに前年同期比は15%程度の増加が見られるが、それを上回る原材料・エネルギーコストが収益を圧迫。自助努力だけでは吸収できない状況が続く。

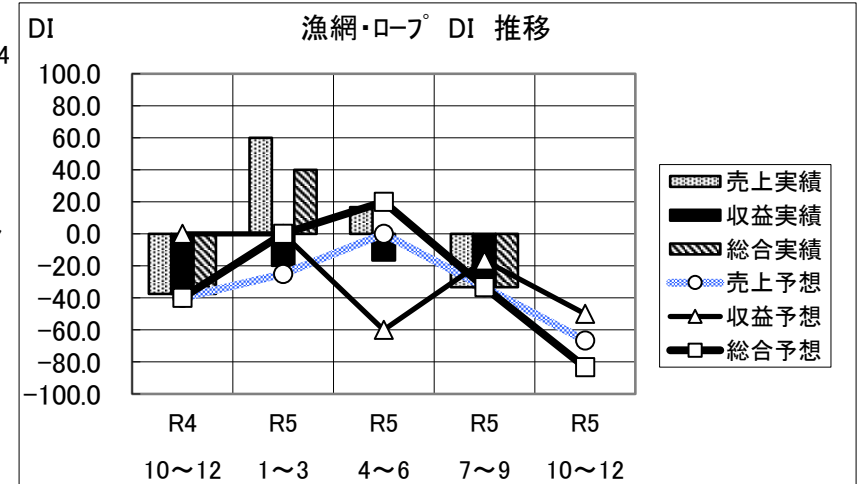
#### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は-66.6ポイントの下降、収益DI値は-50.0ポイントの下降、総合判断DI値は-83.3ポイントの下降となっている。業界全体で製品価格値上げの(細物割り増しも含めて)活動が必要になる。円安・原油高は業界にとって大きなマイナス要因。

#### (漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月~9月 に比べて	前期比 令和5年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-33.3	-66.6
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-16.7
③資金繰り	0.0	-16.7	-33.3
④採算(収益)	-66.7	-33.3	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.3	33.3	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-83.3



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-37.5	60.0	16.7	-33.3	-66.6
収益	-37.5	-20.0	-16.7	-33.3	-50.0
総合	-37.5	40.0	0.0	-33.3	-83.3

## [鉄工]

売上DI値は5.0、前期実績(4~6月期-16.0)に比して21.0ポイントの上昇、収益DI値は-25.0、前期実績(4~6月期-16.0)に比して-9.0ポイントの下降、総合判断DI値は-5.0、前期実績(4~6月期-12.0)に比して7.0ポイントの上昇となった。工作機械関連では、日本工作機械工業会の受注総額は7月1,143億円、8月1,147億円、9月1,339億円。対前年比で内需・外需とも1~2割程度減少が続く、当地区でも同様の傾向にある。自動車関係では、トヨタ国内生産は、新車受注や受注残の挽回生産も含めて前年同期比プラスの高水準で推移。当地区全体でも持ち直し傾向だが、車種の違いもあるが、企業によるバラつきが目立った。

### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は-5.0ポイントの横バイ、収益DI値は-5.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。

#### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位: %)

	前年同期比 令和4年7月~9月 に比べて	前期比 令和5年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	5.0	-5.0
②製品・商品在庫	5.0	0.0	15.0
③資金繰り	-10.0	-10.0	-15.0
④採算(収益)	-20.0	-25.0	-5.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	10.0	5.0	15.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-5.0	-5.0	0.0

## [化学・プラスチック]

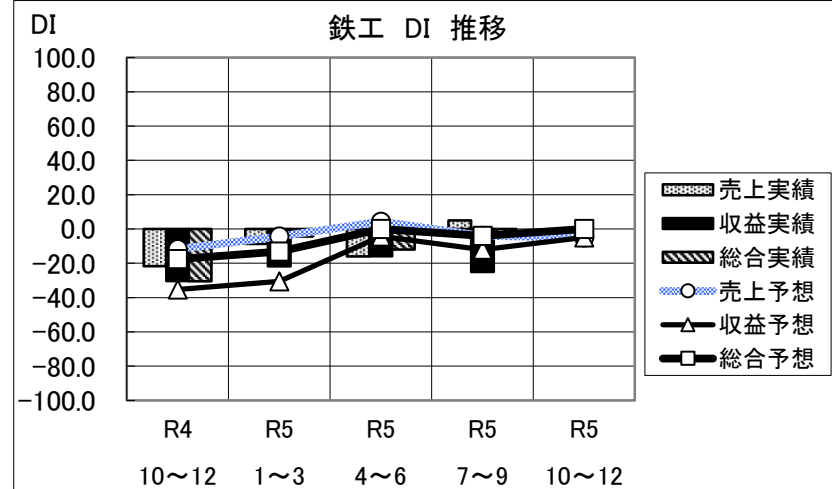
売上DI値は0.0、前期実績(4~6月期16.7)に比して-16.7ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績(4~6月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は16.6、前期実績(4~6月期0.0)に比して16.6ポイントの上昇となった。<化学>中国市況の動向を反映して、輸出が不安定な状況にある。円安による国内回帰の可能性はあるが、海外との生産競争が激化しており、中小企業にとっては非常に厳しい状況。<プラスチック>取引先業界ごとに業況は様々だが、自動車関連は増加傾向。円安、原材料・エネルギー高によるコスト増が収益低下要因になっている。さらにコロナ以降のニーズ変化も影響した。

### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。<化学>中国市況により業況が変化する見込み。<プラスチック>自動車関連は堅調な見込みだが、コストアップ環境が続くため収益は苦戦。本格的な回復に向けては慎重に推移を見守る必要がある。

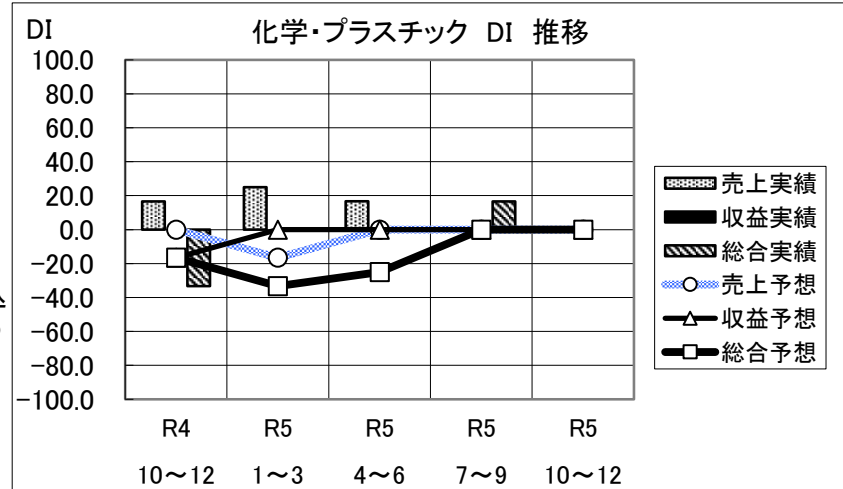
#### (化学・プラスチック) (DI 単位: %)

	前年同期比 令和4年7月~9月 に比べて	前期比 令和5年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	0.0
②製品・商品在庫	28.6	14.3	14.3
③資金繰り	14.3	14.3	14.3
④採算(収益)	14.3	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	-14.3	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	33.3	16.6	0.0



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-21.7	-8.7	-16.0	5.0	-5.0
収益	-30.4	-21.7	-16.0	-25.0	-5.0
総合	-30.5	-4.4	-12.0	-5.0	0.0



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	16.6	25.0	16.7	0.0	0.0
収益	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
総合	-33.3	0.0	0.0	16.6	0.0



## 建設業

売上DI値は62.5、前期実績(4～6月期-42.8)に比して105.3ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(4～6月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は12.5、前期実績(4～6月期-14.3)に比して26.8ポイントの上昇となった。公共工事、民間工事とも堅調に推移した。人件費(人手不足)や資材高騰で収益が圧迫される状況が続く。

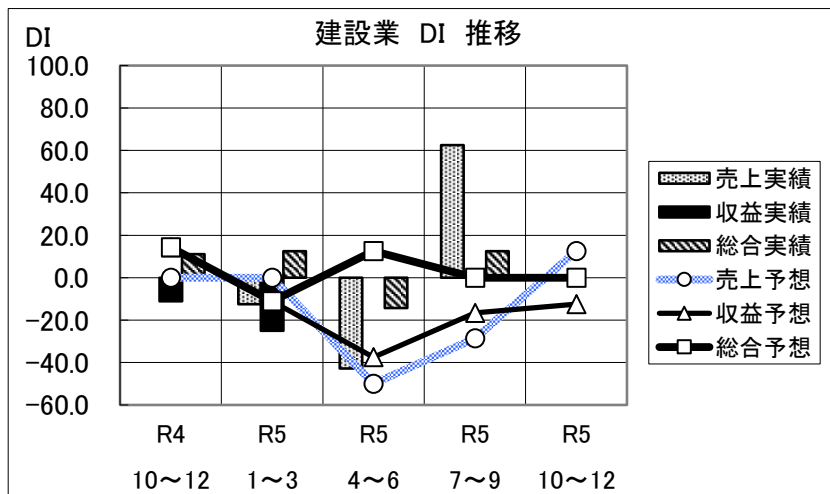
### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は12.5ポイントの上昇、収益DI値は-12.5ポイントの下降、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。引き続き、公共工事、民間工事とも堅調に推移する見込み。

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月～9月 に比べて	前期比 令和5年4月～6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	37.5	62.5	12.5
②製品・商品在庫	0.0	0.0	14.3
③資金繰り	12.5	12.5	12.5
④採算(収益)	25.0	0.0	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	-12.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	12.5	0.0



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	0.0	-12.5	-42.8	62.5	12.5
収益	-11.1	-25.0	0.0	0.0	-12.5
総合	11.1	12.5	-14.3	12.5	0.0

## 卸売業

売上DI値は-18.7、前期実績(4～6月期13.3)に比して-32.0ポイントの下降、収益DI値は-12.5、前期実績(4～6月期0.0)に比して-12.5ポイントの下降、総合判断DI値は-6.3、前期実績(4～6月期20.0)に比して-26.3ポイントの下降となった。

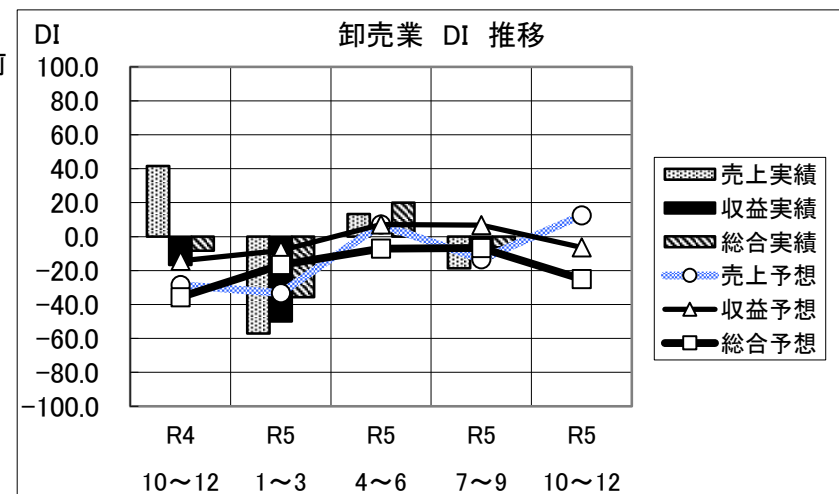
### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は12.5ポイントの上昇、収益DI値は-6.3ポイントの下降、総合判断DI値は-25.0ポイントの下降となっている。

## 卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月～9月 に比べて	前期比 令和5年4月～6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-6.2	-18.7	12.5
②製品・商品在庫	-37.5	-31.2	-18.7
③資金繰り	-12.5	-12.5	-12.5
④採算(収益)	-18.8	-12.5	-6.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-18.8	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	-6.3	-25.0



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	41.6	-57.1	13.3	-18.7	12.5
収益	-16.7	-50.0	0.0	-12.5	-6.3
総合	-8.3	-35.7	20.0	-6.3	-25.0

## 【繊維卸】

売上DI値は-26.7、前期実績(4~6月期7.1)に比して-33.8ポイントの下降、収益DI値は-20.0、前期実績(4~6月期-7.1)に比して-12.9ポイントの下降、総合判断DI値は-13.3、前期実績(4~6月期14.3)に比して-27.6ポイントの下降となった。<産業資材>車両用基布は前期より更に改善。自動車の部品不足も解消が進み最盛期に近い水準に戻った商品も。他の資材用途は回復が鈍化。食料品等の値上げによる繊維関連の消費意欲が低迷か。<インテリア>全体的に厳しい環境で、円安・コスト高等が重なり全体的に動きが鈍い。9月以降の新商品導入で多少の回復傾向。<アパレル>円安、原料高の影響があり、積極的な仕入れより過剰在庫の削減が必要

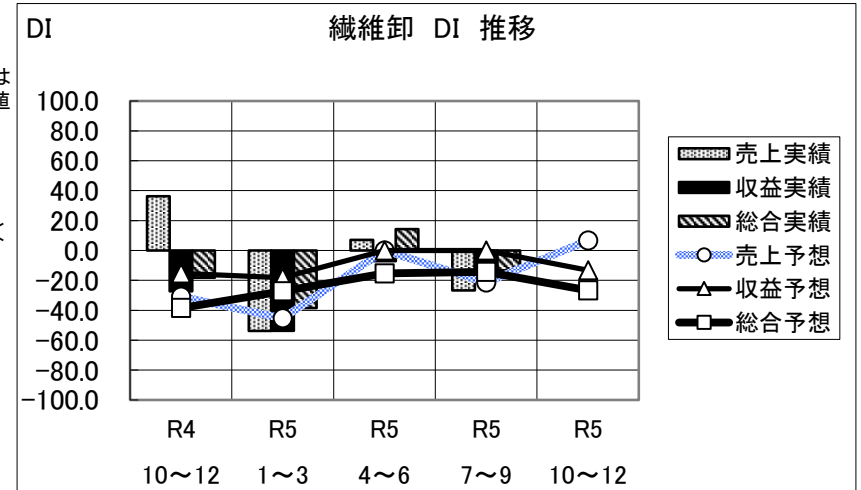
### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は6.7ポイントの上昇、収益DI値は-13.3ポイントの下降、総合判断DI値は-26.7ポイントの下降となっている。<産業資材>車両用基布は7~9月同様に好調な見込み。他の資材用途は原材料・加工賃の高騰による価格改定期であり、苦戦を強いられる見込み。<インテリア>インフレによる消費意欲の減退とコストアップによる利幅減少が重なり、10・11月は引き続き厳しい見込み。12月の繁忙期で多少戻るも厳しい状況となる見込み。<アパレル>当面は消費の盛り上がりよりも、コスト高の悪影響のほうが大きいと思われる。

### (繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月~9月 に比べて	前期比 令和5年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-13.3	-26.7	6.7
②製品・商品在庫	-40.0	-33.3	-20.0
③資金繰り	-13.3	-13.3	-13.3
④採算(収益)	-26.6	-20.0	-13.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-13.3	-26.7



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	36.3	-53.8	7.1	-26.7	6.7
収益	-27.3	-53.8	-7.1	-20.0	-13.3
総合	-18.2	-38.5	14.3	-13.3	-26.7

## 小売業

売上DI値は18.8、前期実績(4~6月期-36.4)に比して55.2ポイントの上昇、収益DI値は-43.7、前期実績(4~6月期-63.6)に比して19.9ポイントの上昇、総合判断DI値は-18.8、前期実績(4~6月期-45.5)に比して26.7ポイントの上昇となった。インフレによる消費意欲減退+コストアップの影響もあり売上・収益ともに厳しい状況。残暑もあり冷房機器が良く動いたが、仕入価格上昇で利幅は縮小した。

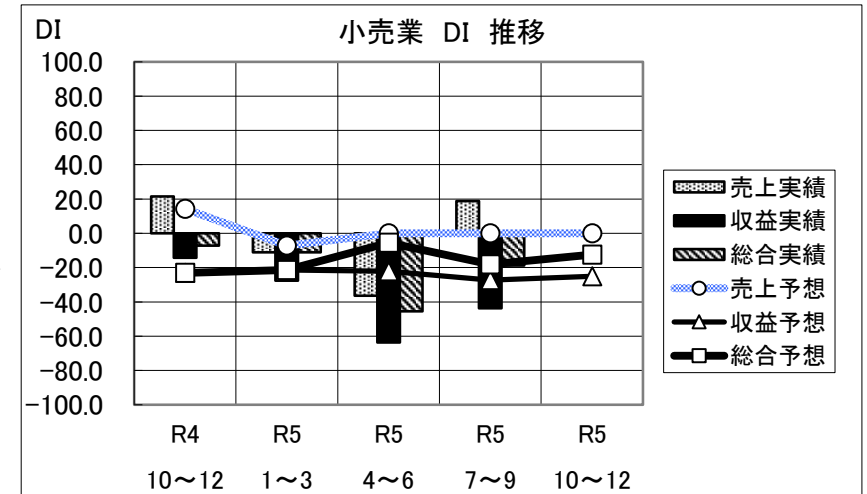
### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-25.0ポイントの下降、総合判断DI値は-12.5ポイントの下降となっている。実質賃金の減少による消費意欲の低迷が懸念材料。また、EC利用者が増加するなど消費者の購買行動が変化している。

### 小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月~9月 に比べて	前期比 令和5年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-18.8	18.8	0.0
②製品・商品在庫	-18.8	-31.3	0.0
③資金繰り	-31.2	-25.0	0.0
④採算(収益)	-43.7	-43.7	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-18.8	-18.8	-6.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-18.8	-12.5



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	21.5	-11.1	-36.4	18.8	0.0
収益	-14.3	-27.7	-63.6	-43.7	-25.0
総合	-7.2	-11.1	-45.5	-18.8	-12.5



### 【飲食】

売上DI値は100.0、前期実績(4～6月期0.0)に比して100.0ポイントの上昇、収益DI値は-50.0、前期実績(4～6月期-33.3)に比して-16.7ポイントの下降、総合判断DI値は50.0、前期実績(4～6月期0.0)に比して50.0ポイントの上昇となった。売上は前年同期・前期比で回復傾向もコストアップの影響で利幅は縮小傾向にある。

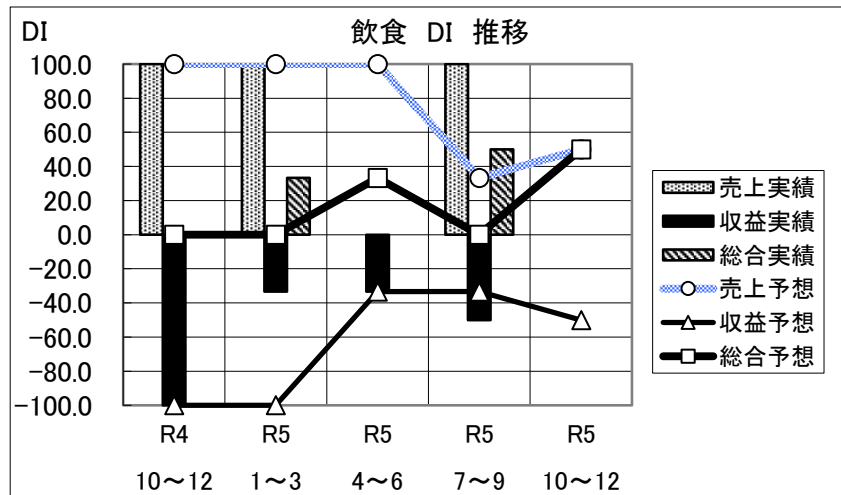
#### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は50.0ポイントの上昇、収益DI値は-50.0ポイントの下降、総合判断DI値は50.0ポイントの上昇となっている。年末年始の繁忙期に入るが、会社利用や冠婚葬祭等の会合の減少などで、宴会利用を想定した店舗に厳しい状況も想定される。

#### (飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月～9月 に比べて	前期比 令和5年4月～6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	100.0	100.0	50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	50.0	50.0	50.0
④採算(収益)	-50.0	-50.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	50.0	50.0



#### <業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	100.0	100.0	0.0	100.0	50.0
収益	-100.0	-33.4	-33.3	-50.0	-50.0
総合	0.0	33.3	0.0	50.0	50.0

### 【石油等その他小売】

売上DI値は16.6、前期実績(4～6月期-60.0)に比して76.6ポイントの上昇、収益DI値は-16.6、前期実績(4～6月期-80.0)に比して63.4ポイントの上昇、総合判断DI値は-33.3、前期実績(4～6月期-60.0)に比して26.7ポイントの上昇となった。原油価格(WTI期近物)は、70ドル台後半から開始。OPEC減産による需給バランス・米中景気刺激策等への期待で値を上げ、中国不動産大手の経営不振と軟調な経済指標で一時下がるも、その後80ドル台後半にて推移。

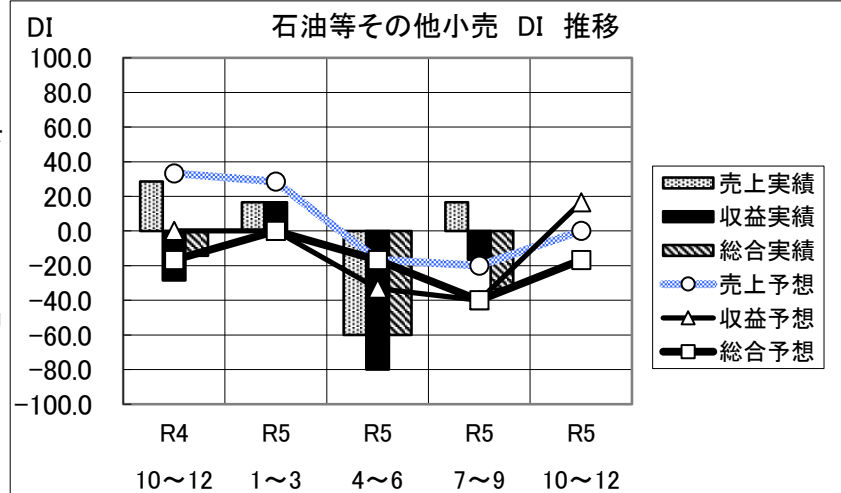
#### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は16.6ポイントの上昇、総合判断DI値は-16.7ポイントの下降となっている。需要はコロナ禍前の水準まで回復も、各国の金融引締めによる需要減で一時鈍化する見込み。その後世界経済の持ち直しと新興国需要でコロナ前を超えていく見込みだが、中東情勢等の地政学リスクにも注意される。

#### (石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月～9月 に比べて	前期比 令和5年4月～6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-33.3	16.6	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-16.7	-16.7	16.7
④採算(収益)	-33.3	-16.6	16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-16.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-16.7



#### <業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	28.6	16.6	-60.0	16.6	0.0
収益	-28.6	16.6	-80.0	-16.6	16.6
総合	-14.3	0.0	-60.0	-33.3	-16.7

### サービス業

売上DI値は44.5、前期実績(4～6月期16.7)に比して27.8ポイントの上昇、収益DI値は33.4、前期実績(4～6月期0.0)に比して33.4ポイントの上昇、総合判断DI値は22.2、前期実績(4～6月期33.3)に比して-11.1ポイントの下降となった。

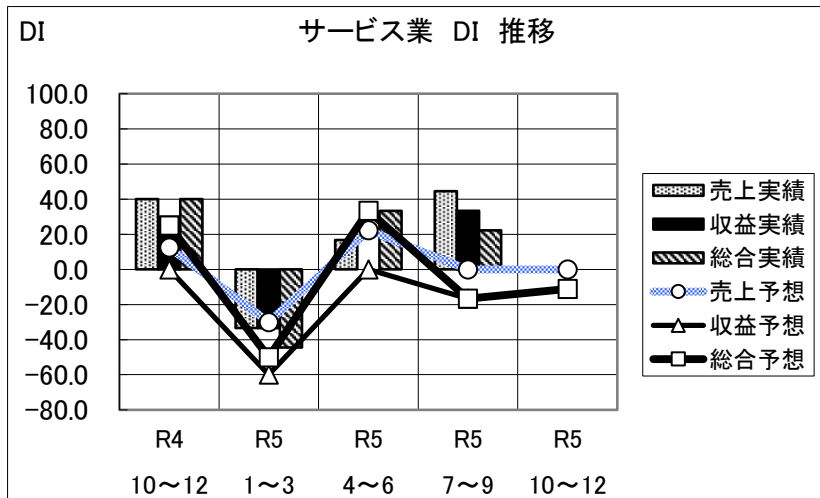
#### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-11.1ポイントの下降、総合判断DI値は-11.1ポイントの下降となっている。

#### サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和4年7月～9月 に比べて	前期比 令和5年4月～6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	77.8	44.5	0.0
②製品・商品在庫	11.1	-11.1	11.1
③資金繰り	33.3	11.1	-11.1
④採算(収益)	33.4	33.4	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	11.1	-44.4	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	55.6	22.2	-11.1



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	40.0	-33.4	16.7	44.5	0.0
収益	30.0	-33.4	0.0	33.4	-11.1
総合	40.0	-44.5	33.3	22.2	-11.1

### 【旅館】

売上DI値は60.0、前期実績(4～6月期50.0)に比して10.0ポイントの上昇、収益DI値は40.0、前期実績(4～6月期25.0)に比して15.0ポイントの上昇、総合判断DI値は40.0、前期実績(4～6月期75.0)に比して-35.0ポイントの下降となった。宿泊者数は昨年比では1～2割アップも、コロナ前比(2019年)の6割程度。宿泊施設の手不足に加え、運転手不足で観光バス・団体の動きが悪い。大河ドラマの影響は多少あるが、インフレによる旅行意欲が減退している所にコストアップ・人件費の価格転嫁を進める難しい状況。

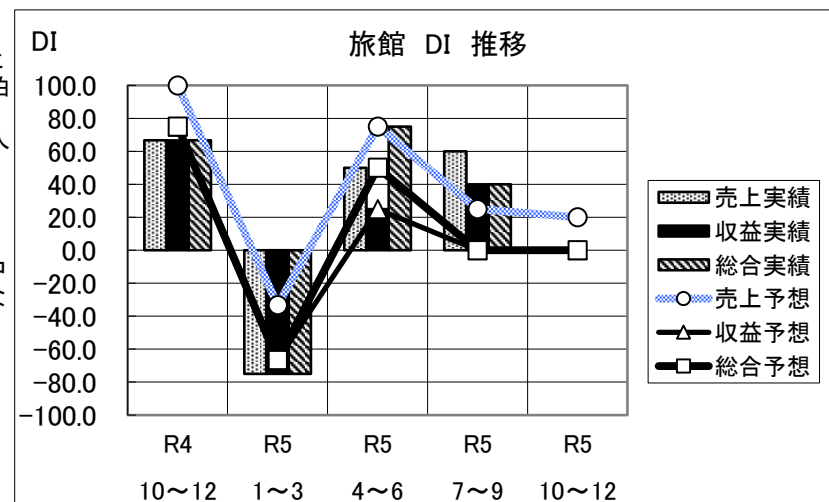
#### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は20.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。年末の需要期で忘年会需要を期待するが、予約の動きは鈍い状況。インバウンドは個人客中心で団体客は大都市圏に流れている。市の観光バスツアー助成は順調も、日帰りだけでなく宿泊にもつなげたい。

#### 【旅館】

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和4年7月～9月 に比べて	前期比 令和5年4月～6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	100.0	60.0	20.0
②製品・商品在庫	20.0	-20.0	20.0
③資金繰り	60.0	20.0	0.0
④採算(収益)	80.0	40.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	40.0	-60.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	100.0	40.0	0.0



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	66.7	-75.0	50.0	60.0	20.0
収益	66.7	-75.0	25.0	40.0	0.0
総合	66.7	-75.0	75.0	40.0	0.0

### 運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績(4~6月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0、前期実績(4~6月期12.5)に比して-12.5ポイントの下降、総合判断DI値は-12.5、前期実績(4~6月期12.5)に比して-25.0ポイントの下降となった。

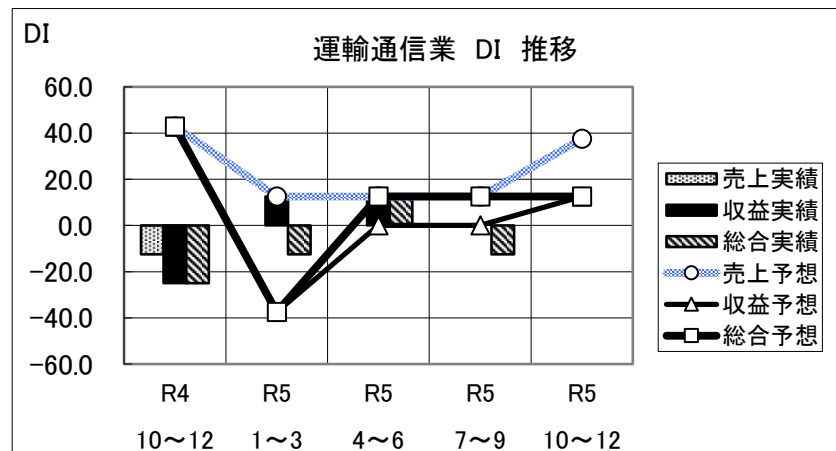
#### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は37.5ポイントの上昇、収益DI値は12.5ポイントの上昇、総合判断DI値は12.5ポイントの上昇となっている。

### 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月~9月 に比べて	前期比 令和5年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	0.0	37.5
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-14.3
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-50.0	0.0	12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	0.0	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-37.5	-12.5	12.5



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-12.5	0.0	0.0	0.0	37.5
収益	-25.0	12.5	12.5	0.0	12.5
総合	-25.0	-12.5	12.5	-12.5	12.5

### [旅客・貨物輸送・水運]

売上DI値は-14.3、前期実績(4~6月期14.3)に比して-28.6ポイントの下降、収益DI値は-14.3、前期実績(4~6月期14.3)に比して-28.6ポイントの下降、総合判断DI値は-14.3、前期実績(4~6月期14.3)に比して-28.6ポイントの下降となった。経済正常化に伴い前年同期比で増加傾向の企業もあり、経済全体・特に製造業の鈍さに影響を受けた企業も。エネルギー高騰・人手不足などから採算面の悪化を訴える声も多く見られた。

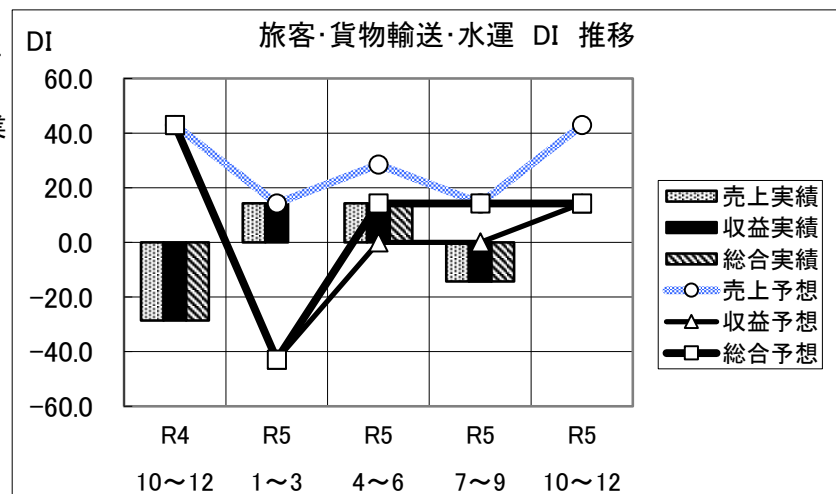
#### 向こう3カ月の見通し

売上DI値は42.9ポイントの上昇、収益DI値は14.3ポイントの上昇、総合判断DI値は14.3ポイントの上昇となっている。売上は改善の見込みだが、各種コストや人手不足により利幅は縮小の見込みである。

### (旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年7月~9月 に比べて	前期比 令和5年4月~6月 に比べて	来期見通し 令和5年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-28.5	-14.3	42.9
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-71.4	-14.3	14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	42.9	14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-42.8	-14.3	14.3

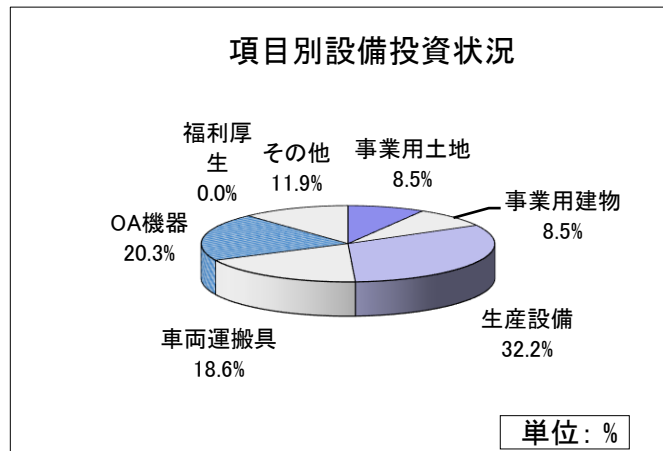
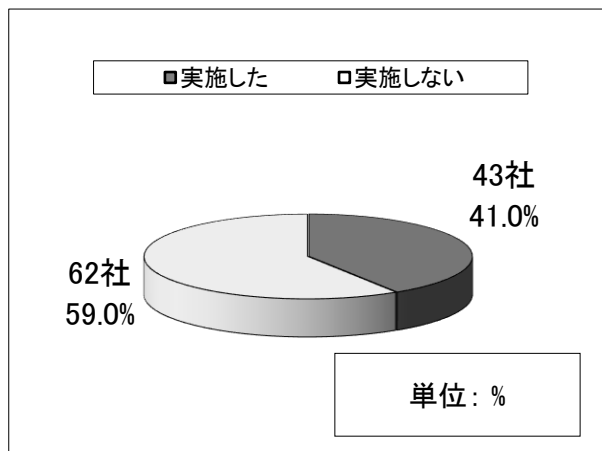


#### <業況判断DIの推移>

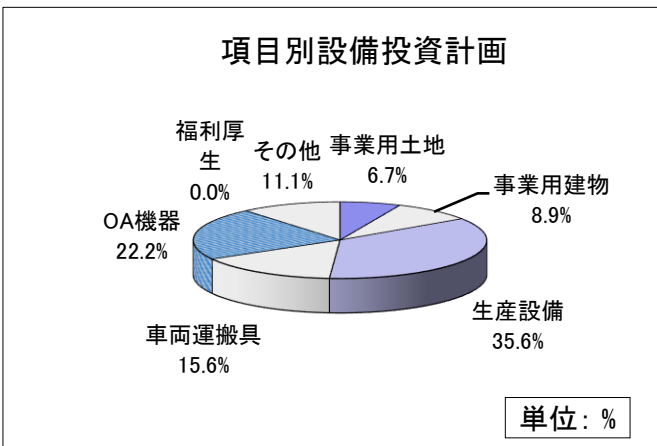
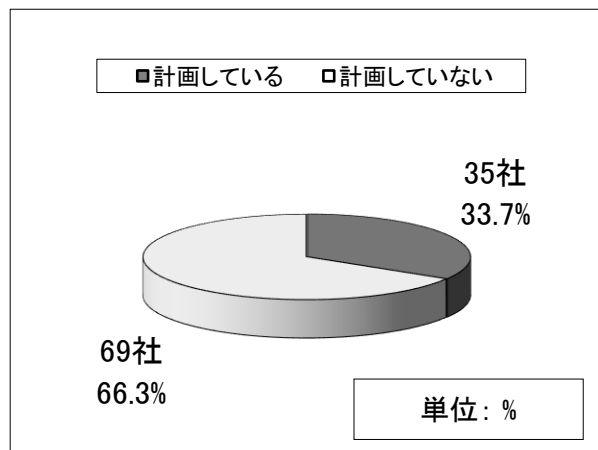
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-28.6	14.3	14.3	-14.3	42.9
収益	-28.6	14.3	14.3	-14.3	14.3
総合	-28.6	0.0	14.3	-14.3	14.3

## 7. 設備投資動向

＜今期 R5.7～9） 設備投資実施状況 全業種＞



＜来期 R5.10～12） 設備投資実施状況 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	5	3
事業用建物	5	4
生産設備	19	16
車両運搬具	11	7
OA機器	12	10
福利厚生	0	0
その他	7	5
計	59	45

(単位:件)

◎今期・来期 設備投資実施、計画動向

		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期	R5.7～9	43	24	1	4	6	3	5
2. 来期	R5.10～12	35	19	2	3	3	2	6

(単位:事業所)

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 104 社)

	項目	件数 %
1	原材料(燃料)高	43 41.3%
2	売上の停滞・減少	37 35.6%
3	利幅の縮小	34 32.7%
4	人手不足	20 19.2%
5	人件費の増加	17 16.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 47 社	原材料(燃料)高 25 社 53.2%	売上の停滞・減少 18 社 38.3%	利幅の縮小 18 社 38.3%
建設業 8 社	原材料(燃料)高 4 社 50.0%	売上の停滞・減少 2 社 25.0%	利幅の縮小 2 社 25.0%
卸売業 16 社	売上の停滞・減少 6 社 37.5%	利幅の縮小 3 社 18.8%	合理化の不足 3 社 18.8%
小売業 16 社	原材料(燃料)高 6 社 37.5%	売上の停滞・減少 5 社 31.3%	人件費の増加 5 社 31.3%
サービス業 9 社	売上の停滞・減少 4 社 44.4%	利幅の縮小 4 社 44.4%	原材料(燃料)高 3 社 33.3%
運輸通信業 8 社	利幅の縮小 4 社 50.0%	売上の停滞・減少 2 社 25.0%	合理化の不足 2 社 25.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

# 付帯調査(地域データ)

No. 100

番号	調査項目	単位	R05.11報告	基準日	R05.08報告	基準日	R05.05報告	基準日	R05.02報告	基準日	出典
1	人口	人	78,199	R5.10.1	78,318	R5.7.1	78,443	R5.4.1	78,666	R5.1.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,422		3,387		3,355		3,324		
2	世帯数	世帯	33,506	R5.10.1	33,426	R5.7.1	33,392	R5.4.1	33,333	R5.1.1	"
	(うち外国人)		1,671		1,611		1,606		1,593		
3	15才～65才生産人口	人	46,257	R5.10.1			45,883	R5.4.1	46,020	R5.1.1	"
	(うち外国人)		3,346				2,746		2,705		
4	全国完全失業率	%	2.7	R5.8月	2.6	R5.5月	2.6	R5.2月	2.5	R4.11月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	2.0	R5.7～9	2.1	R5.4～6	2.0	R5.1～3	1.8	R4.10～12月	愛知県 「あいちの就業状況」
5	全国有効求人倍率	倍	1.29	R5.9月	1.30	R5.6月	1.32	R5.3月	1.35	R4.12月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.52	R5.9月	0.65	R5.6月	0.74	R5.3月	0.85	R4.12月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より



全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 <small>(船舶を除く&lt;前年同月比&gt;%)</small>	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 <small>実質季節調整系列(前期比)</small>	消費支出 <small>前年同月比(%)</small>	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲18.6	1,179,536	526.0	▲0.9	▲0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲12.6	1,173,170	519.2	0.7	▲1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	1.0	▲0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲16.6	1,039,214	509.5	▲3.4	▲1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲15.4	775,277	492.0	▲2.2	▲0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲0.4	▲2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲1.2	920,537	532.9	1.3	▲2.3	493.8
2016年1月	215	3.2	1.28	▲11.3	67,815			▲3.1	23.7
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲6.7	72,831	135.8	0.7	1.2	27.5
3月	214	3.2	1.30	9.8	75,744			▲5.3	40.4
4月	214	3.2	1.34	▲1.1	82,398			▲0.4	21.2
5月	212	3.2	1.36	▲7.3	78,728	134.2	▲0.1	▲1.1	22.3
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953			▲2.2	28.7
7月	201	3.1	1.37	▲4.2	85,208			▲0.5	28.1
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	132.6	0.2	▲4.6	22.3
9月	202	3.0	1.38	▲4.5	85,622			▲2.1	31.7
10月	198	3.0	1.40	▲10.9	87,707			▲0.4	24.2
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	141.6	0.2	▲1.5	27.3
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406			▲0.3	26.4
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491			▲1.2	25.8
(平成29年)2月	192	2.8	1.43	▲0.7	70,912	136.2	0.8	▲3.8	31.2
3月	187	2.8	1.45	▲12.5	75,887			▲1.3	46.0
4月	187	2.8	1.48	▲0.2	83,979			▲1.4	22.4
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	136.0	0.4	▲0.1	23.7
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234			▲0.2	27.8
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	135.7	0.8	0.6	23.3
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128			▲0.3	31.8
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	144.4	0.1	1.7	25.8
12月	181	2.8	1.59	▲6.6	76,751			▲0.1	26.2
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	138.9	0.1	0.1	29.6
3月	172	2.5	1.59	▲2.8	69,616			▲0.2	43.8
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226			▲1.3	22.5
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	137.9	0.3	▲3.9	23.6
6月	167	2.4	1.62	▲4.2	81,275			▲1.2	29.2
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	135.2	▲0.5	2.8	23.3
9月	161	2.3	1.64	▲5.4	81,903			▲1.6	30.8
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330			▲0.3	26.1
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	144.4	▲0.1	▲0.6	27.9
12月	164	2.4	1.63	▲4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	172	2.5	1.63	▲8.5	67,087			2.0	24.9
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲3.7	71,966	138.8	0.2	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.62	▲0.2	76,558			2.1	41.7
4月	168	2.4	1.63	▲6.0	79,389			1.3	23.0
(令和元年)5月	162	2.4	1.62	▲10.1	72,581	138.4	0.4	4.0	24.7
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541			2.7	29.0
7月	154	2.2	1.59	▲10.6	79,232			0.8	30.0
8月	154	2.2	1.59	0.9	76,034	136.8	0.2	1.0	24.2
9月	167	2.4	1.58	▲6.4	77,915			9.5	34.7
10月	166	2.2	1.58	▲8.8	77,123			▲5.1	19.2
11月	151	2.2	1.57	▲15.2	73,523	143.7	▲2.7	▲2.0	23.8
12月	145	2.2	1.57	▲7.9	72,174			▲4.8	22.6
2020年1月	159	2.3	1.49	▲0.8	60,341			▲3.9	22.1
(令和2年)2月	159	2.4	1.45	▲7.7	63,105	137.7	0.4	▲0.3	26.8
3月	176	2.5	1.39	0.1	70,729			▲6.0	37.4
4月	189	2.6	1.32	▲10.1	69,162			▲11.1	17.2
5月	198	2.9	1.20	▲20.9	63,839	126.7	▲7.9	▲16.2	14.7
6月	195	2.8	1.11	▲22.4	71,101			▲1.2	21.4
7月	197	2.9	1.08	▲17.9	70,244			▲7.6	23.9
8月	206	3.0	1.04	▲17.0	69,101	131.3	5.6	▲6.9	19.7
9月	210	3.0	1.03	▲1.5	70,186			▲10.2	29.3
10月	215	3.1	1.04	▲1.2	70,685			1.9	25.3
11月	195	2.9	1.06	1.3	70,798	143.4	1.9	1.1	25.3
12月	194	2.9	1.06	18.7	65,643			▲0.6	24.3
2021年1月	197	2.9	1.10	▲1.0	58,448			▲6.1	23.6
(令和3年)2月	194	2.9	1.09	39.8	60,764	136.3	▲0.3	▲6.8	26.2
3月	188	2.6	1.10	▲5.4	71,787			6.2	38.4
4月	209	2.8	1.09	14.7	74,521			13.0	21.0
5月	211	3.0	1.09	41.1	70,178	135.9	0.5	11.6	19.3
6月	206	2.9	1.13	35.5	76,312			▲5.1	23.4
7月	191	2.8	1.15	43.9	77,182			0.7	23.4
8月	193	2.8	1.14	20.6	74,303	133.5	▲0.4	▲3.0	20.6
9月	192	2.8	1.16	12.6	73,178			▲1.9	20.5
10月	183	2.7	1.15	28.3	78,004			▲0.6	17.6
11月	182	2.8	1.15	24.7	73,414	144.2	1.1	▲1.3	21.9
12月	171	2.7	1.16	17.6	68,393			▲0.2	21.8
2022年1月	185	2.8	1.21	20.0	59,690			6.9	20.7
(令和4年)2月	180	2.7	1.22	▲16.8	64,614	137.6	▲0.6	1.1	21.3
3月	180	2.6	1.22	14.3	76,120			▲2.3	32.7
4月	188	2.5	1.23	25.4	76,294			▲1.7	17.8
5月	191	2.6	1.27	13.2	67,193	137.8	1.3	▲0.5	16.1
6月	186	2.6	1.27	15.7	74,596			3.5	19.7
7月	176	2.6	1.29	4.8	72,981			3.4	21.4
8月	177	2.5	1.32	6.5	77,712	135.0	▲0.3	5.1	17.9
9月	176	2.6	1.34	7.9	73,920			2.3	24.2
10月	183	2.6	1.35	▲5.7	76,590			1.2	21.1
11月	182	2.5	1.35	▲4.6	72,372	146.5	0.1	▲1.2	22.1
12月	171	2.5	1.35	▲4.7	67,249			▲1.3	20.9
2023年1月	197	2.4	1.35	▲11.7	63,604			▲0.3	22.9
(令和5年)2月	194	2.6	1.34	▲1.5	64,426	143.1	0.8	1.6	26.9
3月	188	2.8	1.32	▲7.6	73,693			▲1.9	37.8
4月	188	2.6	1.32	▲12.5	67,250			▲4.4	21.9
5月	191	2.6	1.31	▲4.2	69,561	144.9	1.2	▲4.0	20.6
6月	186	2.5	1.30	▲8.1	71,015			▲4.2	25.9
7月	176	2.7	1.29	1.7	68,151			▲5.0	
8月	177	2.9	1.29	▲8.9	70,389			▲2.5	
9月		1.29			68,941			▲2.8	

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)